

人間社会学部

試験問題冊子

(奨学生 12月16日)

国語

注 意

- ① 試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開かないこと。
- ② 問題冊子に落丁、乱丁があった場合は、試験監督者に申し出ること。
- ③ 試験監督者が試験開始の指示をしたら、ただちに解答用紙の所定欄に、受験番号を記入し、マークすること。
- ④ 解答は全て解答用紙に記入すること。
- ⑤ マーク式解答欄および裏面の記述式解答欄の指定された箇所以外は使用しないこと。
- ⑥ 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

注意 解答はすべて各問の下端の□内に指示された解答欄にマークまたは記入すること。なお、解答欄のうち、この試験で使うのは、マーク式解答欄の1～14、記述式解答欄のA～Jのみである。

問題一 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

キーワードは**共感と共助**、そして**共創**

「はじめに」で、渋沢栄一の合本主義について述べました。

彼は「一滴一滴が大河になる」という合本主義に基づき、銀行を設立し、日本の民間経済を拓きました。

一滴のしずくには力がないけれど、集合させて流れができれば原動力となる。それと同じように、小さなお金を集め、国家の基礎となる大きな水流をつくりだそうとしたのです。渋沢栄一の実想は実を結び、現在の日本の銀行をはじめ経済社会が存在しているといえるでしょう。

小さなしずくの一滴を集めるには、何が必要でしょうか。

キーワードは、「共感」です。

銀行には、資産家から一般家庭の方々まで、多くの方がお金を預けています。それは「我々の大切なお金を保管してほしい」という、共感の集まり。共感なくして、一滴の集合はあり得ません。

20年ほど前、私は大手ヘッジファンドに勤めていました。ヘッジファンド業界は「俺のカネを減らしたくない。毎年、殖やしたいんだ！」という絶対的なりターンへの欲求に基づいた富豪たちの共感で成り立ちました。翻¹って、社会活動やボランティアは、「ムシ¹ョウでいいから他者を助けたい」という共感が人々の間から生まれ、みんなの力で実行されます。

共感とは、□aがあるのです。

ただ、人が集まっても、ワイワイがやがやしているだけでは意味がありません。共感があっても強弱やノウタン²、得意・不得意、長所・短所、いずれもでこぼこです。いろんな人が集まったはいいけれど、事業として前進しない……ということは、しばしば起きます。集まった小さな力は、共に助け合わなくてはいけません。

共感と同じように、大切なキーワードが、「共助」です。

苦手なところ、弱いところを補い合い、でこぼこをなくせば、物事はスムーズに回り始める。一滴が流れへと変化していきます。

共感と共助を合わせること。いわば足し算ですね。それが合本主義の根幹になります。足し算が成功したら、次のステップでは掛け算ができます。

合本主義における掛け算とは、「共創」です。創ることが繰り返しできれば、掛け算効果へとつながります。

共に感じた者たちが集まって、共に助け合い、共に大河の流れを創っていく。そんな共創こそが、渋沢栄一が真にイメージした社会像ではないでしょうか。

小さな力を集め、日本を共創する。渋沢栄一の実想は多くの支持者を得ましたが、

異論を発する人もいました。よく知られる「ライバル」は、三菱財閥の祖である岩崎弥太郎です。栄一と弥太郎は、郵船事業をめぐって、激しく対立したといわれます。それには複雑な経緯があるのですが、弥太郎が栄一の合本主義に懐疑的だったのは、たしかなようです。

弥太郎は小さなお金を集めて社会へ還元していくのは非効率で、「才能がある人物が資本と経営を一手に握らなければ、決してうまくいかない」という考え方でした。栄一の説く「一滴一滴が大河になる」主義とは、相容れ³ません。しかし、弥太郎と栄一は「東海上保険会社」の創立に一緒に関わるなど、ビジネスマンとしての根底の部分では、つながっていました。ときにぶつかることはあっても、弥太郎もまた、栄一たちと一緒に社会を共創する、大河の一滴だったのかもしれない。

合本主義はステークホルダーキャピタリズム

渋沢栄一の合本主義は、国富論に近いでしょう。「民間力が高まらなければ国は豊かにならない」との確信から、⁴シユツジ⁴に関係なく一人ひとりの努力が報われるような社会を目指していました。そこから民間の多くの人たちの出資で国の経済を強くし、そこから国民へ還元していくシステムを構想したのです。

岩崎弥太郎の考えていた資本主義とは、今という株主資本主義でした。企業価値とは株主価値を高めること。これは私が80年代に米国の経営大学院(MBA)で学んだときに教わった定義です。弥太郎の立場でなくとも、株主資本主義は当たり前前の考え方でした。時代は移り変わり、2020年現在、社会全体がSDGsの実走を始めました。そうしたとき渋沢栄一の合本主義は、幅広い有効性が認められます。

企業を運営していくためには、株主だけではなく、経営者が要ります。もちろん従業員も必要です。さらには取引先がなくてはダメですし、顧客、従業員たちの家族のサポートを含む社会など、様々な人の力が求められます。

総じると、それらはステークホルダーです。「利害関係者」と訳される言葉ですね。企業と利害関係を有するステークホルダーたちがそれぞれの役目を果たし、会社の価値を高めるといふ共感によってお互いの役目を共助すれば、強い企業価値をつくることができるのです。

渋沢栄一の合本主義は、現在、欧米が着眼し始めた「ステークホルダーキャピタリズム」と言い換えられます。

企業が提供する価値は、株主だけの価値に留まっている時代ではありません。経営者、従業員、顧客、取引先、そして社会など、広義におけるステークホルダーの価値を、まとめて創出していくことが求められています。これからの企業の存在意義とは、ステークホルダーの価値の最大化という時代なのです。渋沢栄一は約1世紀も前から、そのことを説いていたのです。

実社会でのサステナビリティとインクルージョン

『論語と算盤』は、渋沢栄一のトレードマークとなる思想論です。この本で説かれている思想は、ときに「倫理的資本主義」と解釈されることがあります。栄一自身も「道徳経済合一説」という表現を用いておりますので、間違いではないでしょう。

b、経済の話をするときに倫理とか道徳とかいわれても、戸惑う人は少なくありません。道徳経済合一説という言葉も、やや堅い。どこか他人事のように感じられる表現ですよ。『抽象論は興味ない』と敬遠されるのも、無理のない話です。講演会などで『論語と算盤』について話すときは、私はもうちょっとエッセンスを噛み砕き、渋沢栄一のところを伝えていきます。それは多くの人にとって、自分事として受け入れられるような内容だと思います。

c、『論語と算盤』の「算盤と権利」(第七章)のなかには、「合理的の経営」という教えが出てきます。

〈経営者一人がいかに大富豪になっても、そのために社会の多数が貧困に陥るようなことでは、その幸福は継続されない〉

これは、お金儲けを否定しているわけではありません。一人ひとりの努力によって、それぞれが仕事に就いて稼ぐことを、渋沢栄一は否定していません。d、そのような意欲を持つべきだと考えていました。ですが、経営者が稼ぎの手段を選ばず、儲けを独り占めしてしまうこと。それは、結果的には自分自身の幸福にもならないんじゃないの？ という論旨だと解釈できます。

別の章では、こんな指摘もあります。

〈正しい道理の富でなければ、その富は完全に永続することができない。したがって論語と算盤を一致させることが今日の大切な務めである〉

「永続」のためには「道理」が必要だということです。

私は「継続」と「永続」というキーワードに着眼しました。つまり、渋沢栄一が『論語と算盤』で最も言いたかったことを今の言葉で表現すれば、「持続可能性」サステナビリティ^ウではないでしょうか。

未来に向けてよりよい社会を継続していくためには、算盤カンジヨウ⁵ができなければサステナビリティ^ウはないのです。一方、算盤だけを見つめると、どこかでつまづいてしまうかもしれない。また「自分は論語が好きで、お金儲けなんて卑しいことには関心ないよ」という方もいらっしゃるでしょう。それはそれで結構だとは思いますが、IT革命以降、世のなかが猛スピードで変化していくなか、論語しか読まないのではサステナビリティに欠けている姿勢ではないかと感じます。論語と算盤は、未来に向かって進む車の両輪です。片方が大きくて片方が小さくてもいけません。

サステナビリティともう一つ、『論語と算盤』から連想される言葉があります。インクルージョンです。

日本語では「包摂性」と訳されていますが、渋沢栄一が考えたインクルージョンというのは「結果平等」ではありません。渋沢栄一は「富の平均的分配は空想だ」と述べています。それぞれの才能、努力、成果に関係なく、お金は平等に、誰にも分け隔てなく、分配される——そんな社会は幻想で、理想的ではないということです。なぜかといえば、世のなかにはいろんな立場、いろんな才能を持った人が、バラバラに存在します。多様性という表現もできますが、要は社会全体をひとくくりで対処するのは、とても難しい。必死に努力する人がいる一方で、まるで努力しない、向上心のない人もいます。そのような状態で、同じ恩恵を受けることが当然な社会であるべきか？ それは違うでしょう、ということです。渋沢栄一も、社会で弱者といわれる人たちも含む、それぞれの努力が

それぞれに報われる社会を目指していたのだと思います。

『論語と算盤』は、結果平等を謳ってはいません。しかし、機会平等は保たれるべきだと語っています。

では、機会平等とは、何でしょうか？

たとえば、社会で弱い立場の人々に対しては、福祉の施設や法整備で対応します。家庭環境や身体に問題がある人々には、それぞれの条件で自立できる機会をつくりまします。そのような「機会」の平等を、渋沢栄一は考えていたのだと思います。でなければ、600ぐらいの教育機関、社会福祉施設、今でいう「NPO」や「NGO」の設立に関与することはなかったでしょう。

豊かさは人によって違いはあっても、幸せになるための機会は万人がアクセスできる。そんなインクルーシブな社会を、渋沢栄一は思い描いていたのです。貧しい国の人を救うために、「魚を与えるのではなく、釣り方を覚えてもらいましょう」とよくいわれます。その考え方に近いでしょう。

(洪澤 健『SDGs投資』)

※出題者注…ヘッジファンド 高い収益を目指す投資信託を行う企業

問1 傍線部1、2、4、5のカタカナを漢字に直し、傍線部3の漢字のよみをひらがなで、それぞれ記述式解答欄に記入しなさい。

1 2 3 4 5

問2 傍線部ア「翻って」のここでの意味として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 表現を変えたと
- ② 他の例をあげると
- ③ 逆の側面から見ると
- ④ 振り返ると

問3 空欄 に当てはまるものとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 長所を活かし短所を克服する力
- ② 富豪たちの欲求を押しなべる力
- ③ 多様な考えを集めて一様にする力
- ④ 散らばった存在を集める力

問4 傍線部イ「合本主義は、幅広い有効性が認められます」とあるが、筆者は合本主義がどのように有効であると考えているか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

3

- ① 社会全体がSDGsの実走を始めた現在、合本主義は企業が提供する価値を株主価値に留めている。
- ② 企業の運営に様々な利害関係が存在する現在、合本主義は銀行の設立をはじめとした経済社会の発展に大きく貢献している。
- ③ 企業の利害関係者全体の価値を高めることが求められる現在、合本主義は企業の存在意義を支えている。
- ④ ステークホルダーの価値の最大化が求められる現在、合本主義は欧米の「ステークホルダーキャピタリズム」に模倣されている。

問5 空欄 b、c、d に当てはまる語の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

4

- ① b しかし c たとえば d むしろ
- ② b なぜなら c たとえば d 要するに
- ③ b しかし c 反対に d 要するに
- ④ b 要するに c 反対に d たとえば

問6 傍線部ウ「論語と算盤を一致させる」が意味する内容として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

5

- ① 企業経営のなかで、倫理学の知識と経営学の技術とを一体化した素養を身につけておく。
- ② 企業経営のなかで、利益をあげることとその利益をどう分配するかを常に考えておく。
- ③ 企業経営のなかで、他者や社会のためになることと利潤を得ることとの両方を追究する。
- ④ 企業経営のなかで、論語の精神と珠算の精神とが重なりあう極意を活動の指針とする。

問7 傍線部エ「魚を与えるのではなく、釣り方を覚えてもらいましょう」とあるが、筆者がここで表現したい内容として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

6

- ① 与えられた富よりも自分で手に入れた富の方が価値がある。
- ② 分配される富の大きさは、払った努力によって決められるべきである。
- ③ 豊かになるための機会を与えたからといって、必ずしも豊かになれるとは限らない。
- ④ 富を提供するよりも富を得る機会を提供する方が、長期的な自立につながる。

問8 本文の内容に最も合致するものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

7

- ① サステナブルな企業経営をするためには、岩崎弥太郎のような稼ぐ意欲を持つことが必要である。
- ② 渋沢栄一は、多くの人からお金を集めて事業をおこし、得た利益を社会に還元することを重視した。
- ③ 合本主義は、その思想に懐疑的な岩崎弥太郎を含む万人に理解してもらう必要があった。
- ④ 現代のインクルージョンの思想は、渋沢栄一の書である『論語と算盤』に端を発する。

問題二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

「自分の人生には意味が欠けている」と感じている人々は、退屈を感じる人が多い。これは若年成人か中高年かを問わずあてはまるので、人生の意味を定義したり評価したりするための、直接的あるいは間接的な方法として使われている。政治に没頭している人々は退屈を訴える傾向が低い。政治でもほかの何かでも、目標を達成していると報告する人々は、やはり退屈を訴える頻度¹が低い。その人が意味を生み出すのに成功しているか失敗しているかによらず、退屈は意味と結びついているのだ。

私たちの研究で、人が自分の人生をどれくらい意味深いと考えているかによって、将来の退屈を感じる可能性を予測できることがわかっている。この研究結果は二つの点で重要だ。第一に、退屈と意味が長期間にわたって関連していることを明らかにした。第二に、aという可能性を示した。この成果は、ほかの研究によって裏づけられている。たとえば、臨床事例に基づいた研究では、頻繁に退屈を感じる人には、人生に意味を与える長期的な目標がないという共通点が見出されている。人生の意味を感じるために、だれもが資産価値数百万ドルのソフトウェア帝国をつくって、ジゼン²団体を創設する必要はないが、大きな長期目標をもつことは有益である。

デューケイン大学のリチャード・バーグデイルは、人生の大きな計画で妥協³すると、慢性的な退屈が生じると主張している。彼は、退屈を頻繁に感じる人々に綿密³な聞き取り調査を行い、彼らが、人生の大きな計画をあきらめた事実を受け入れていないことを発見した。彼らは、自分が夢や目標を追求できなかったのは、ひどい教師や病気といった、他人や生活環境のせいだと説明した。その一方、心の深いところでは、bにも怒りを感じていた。彼らが十分に人生に関われないのは、本当にやりたいことをしていないからだった。そのうえ、将来の人生に満足する可能性について悲観し、時がたつにつれて、ますます消極的、防衛的になり、自分の内面へと後退していったのである。

こうした研究が示すヒントを前にすると、つい、人生の意味の欠如⁴が退屈を引き起こすと断定してしまいたくなる。しかし、人生の意味の欠如と退屈のあいだにあるのは相関関係であり、科学者の卵のだれもが教えられないように、相関関係は因果関係ではない。研究者が調べていないほかの多くの要素のなかに、人生の意味と退屈が関連している理由を説明できるものがある可能性も否定できない。

因果関係の問題は検証が難しい。結婚⁴、ソウギ⁴、子どもの誕生といった、人生で大きな意味をもつ出来事を実験で変えるのは、倫理に反するし、そもそも不可能だ。だが、人々に頼んで、かつて人生の意味を強く感じたときや逆に失ったときを思い出してもらうことはできる。そうすると、一時的に、人生の意味についての思考や感情にバイアスがかかるので、そのバイアスが、現時点の退屈感に影響を与えているかどうかを調べればよいのである。

私たちは被験者を実験室に招き、人生の意味の定義について詳しく説明した。次に、一つのグループに、それまでの人生で特に大きな意味を感じたときを思い出してもらい、状況を簡潔に記述してもらった。もう一つのグループには、意味がないと感じたときを思い出して、状況を記述してもらった。そして、人生の意味についての感情が一時的に変わったあとで、被験者の退屈のレベルを測定した。予測どおり、意味がないときを思

い出してもらったグループは、意味深いときを思い出してもらったグループよりも高いレベルの退屈を示した。人生の意味が感じられないと退屈が生じる可能性があると見える。

人生の意味や目的が感じられるとき、世界に没頭するための選択肢は明らかで、必然的に決まる。それに対し、意味や目的がなくなると、行動の選択肢の価値や重要性は次第に消えていく。特に何かをする理由がない場合、ほかのことではなく、ある特定のことをする理由を見つけないのは困難になる。意味が人間を行動へと駆り立てるのは、その行動が重要性をもつからだ。人生の意味を失えば、私たちは方向性を失い、欲求にとつての難題にはまり込み、退屈する。

別の実験では、被験者を退屈させたあとで、「人生の意味をどう感じているか」について質問した。その結果、人は、退屈していても人生を無意味とは感じないことがわかった。子どもが通う学校のクリスマス発表会で、息子や娘が登場する5分間のために、退屈に襲われながら4時間座つていても、親であることの意味や価値は減らない。すなわち、人生の意味の減少が一時的な退屈感を引き起こすことはあっても、その逆は成り立たないのだ。一見すると、これは「退屈は目的がないと感じることと結びついている」という、私たちの当初の主張と一致しないように思えるかもしれない。だが、この矛盾は、人生の意味と状況の意味とをはっきり区別すれば解消する。人が自分の置かれた状況を意味がないと感じる可能性はあるが、退屈が人生の意味の感覚を変えするという証拠は見つかっていない。

人生の意味や目的をもっていない人は、しばしば退屈を感じると訴える。人生の意味や目的の欠如は、実際に退屈を引き起こす可能性がある。だが、退屈しているからといって、必ずしも自分の人生に意味がないと感じるようになるわけではない。これは直感的に理解できる。なんらかの個別の退屈の症状が、人生についての一般的な思考や気持ちに変化をもたらすとは想像しがたいからだ。しかし、長期にわたる退屈の経験が、「自分の人生には意味がある」という見方を徐々に変えていく可能性はある。

したがって、新たな研究成果は、退屈と意味に関する私たちの当初の考えを裏づけるとともに、洗練させたといえる。これまでに見てきたとおり、私たち自身は、退屈を一つのシグナルだと考えている。それが知らせるのは、心がクウキョ⁵で、欲求にとつての難題にとらえられている状態、要するに、没頭していない状態である。私たちは、退屈の中心にあるのは、意味の欠如よりも没頭の欠如だと考えている。それにもかかわらず、心を満たさず、欲求に由来しない活動は、概して無益で価値がないものとして経験される。退屈していると、人は自分の置かれた状況を意味がないと感じるのである。その価値評価が、人間を意味があるものの探求に向かわせるのかもしれない。

(J・ダンカート & J・D・イーストウッド 一川 誠監訳・神月謙一訳
『暇と退屈の心理学』)

OUT OF MY SKULL: THE PSYCHOLOGY OF BOREDOM by James Danckert and John D. Eastwood, Cambridge, Mass.: Harvard University Press, Copyright © 2020 by the President and Fellows of Harvard College. Used by permission. All rights reserved.

問1 傍線部1、3の漢字のよみをひらがなで、2、4、5のカタカナを漢字に直して、それぞれ記述式解答欄に記入しなさい。

1 2 3 4 5

問2 空欄 に当てはまるものとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 実は、退屈は人生の信念を無意味にする
- ② 退屈で意味のない人生など実はない
- ③ 退屈は人生に短期的な苦痛を与える
- ④ 退屈を生むのは、実は人生の意味に関する信念だ

問3 傍線部ア「妥協する」のここでの意味として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 決別する
- ② 歩み寄る
- ③ 断念する
- ④ 折り合う

問4 空欄 に当てはまるものとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① あきらめて最後までやり通せなかった自分
- ② 他人の言うことに翻弄されすぎた自分
- ③ 将来について考えていなかった自分
- ④ 自らの適性がわかっていなかった自分

問5 傍線部イ「人生の意味の欠如が退屈を引き起こすと断定してしまいたくなる」とあるが、筆者がここで断定しない理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① これまで行われた研究の結果の中にまだ精査されていない部分があるから
- ② 退屈や人生の意味の欠如といった心の側面を調べる実験は倫理に反するから
- ③ 人生の意味を強く感じたときの感情を正確に思い出すことは不可能だから
- ④ 人生の意味の欠如が退屈感を生むという因果関係はまだ調べられていないから

問6 傍線部ウ「バイアスがかかる」のここでの意味として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 思考や感情が一時的に変わる。
- ② 思考や感情が先入観で乱れる。
- ③ 思考や感情が過去のものと置き替わる。
- ④ 思考や感情が持続的に固定される。

問7 傍線部エ「欲求にとっての難題にはまり込」むことの例として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

13

- ① 不合理な欲求にとられる。
- ② 没頭するものが無い。
- ③ 障害物にじゃまされる。
- ④ 目標がどんどん遠くなる。

問8 傍線部オ「洗練させたといえる」とあるが、筆者はどのような点で洗練させたと考えているか。最も適当でないものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

14

- ① 退屈の中心にあるのは意味の欠如ではなく没頭の欠如だと実証したこと
- ② 人生の意味の欠如が退屈を引きおこすという可能性を示唆したこと
- ③ 人生の意味と状況の意味とは退屈に与える影響が違うことを指摘したこと
- ④ 退屈が人生の意味の感覚を変えろという証拠はみつからなかったこと

(以上)